



2月26日、ラッセホールで人権教育ひょうご春季学習会が開催され、各地域組合から栄養教職員をはじめ、約60人が参加した。開会式の後、山口健太さん(株式会社日本教育資料代表取締役)と、松村美樹さん(月刊給食指導研修資料)による「会食恐怖症から給食指導や食べられない子どもの対応を考える」と題した講演がおこなわれた。

栄養教職員部は、安全・安心でおいしい学校給食の充実と、学校給食を生きた教材として学校における食育推進に取り組んでいる。県内各地で、食物アレルギーに対応をはじめ、地域・家

## 人権教育ひょうご 春季学習会



講演

北川さんは「2020年香川県の県教委がおこなった教員の人権意識調査の中で、「同和問題について説明できる・おおよそ知っている」と答えた人が67%いる」と答える人が67%いる」という人は6割、中学校で約5割、高校では5割を切つており、同和問題のことを子どもに聞かれても答えられないという回答になつている。

北川さんは「2020年香川県の県教委がおこなつた教員の人権意識調査の中で、「同和問題について説明できる・おおよそ知っている」と答えた人が67%いる」と答える人が67%いる」という人は6割、中学校で約5割、高校では5割を切つており、同和問題のことを子どもに聞かれても答えられないという回答になつている。

北川さんは「2020年香川県の県教委がおこなつた教員の人権意識調査の中で、「同和問題について説明できる・おおよそ知っている」と答えた人が67%いる」と答える人が67%いる」という人は6割、中学校で約5割、高校では5割を切つており、同和問題のことを子どもに聞かれても答えられないという回答になつている。

2月17日、ラッセホールで第36回学校給食を考える集いがおこなわれ、各地域組合から栄養教職員をはじめ、約60人が参加した。開会式の後、山口健太さん(株式会社日本教育資料代表取締役)と、松村美樹さん(月刊給食指導研修資料)による「会食恐怖症から給食指導や食べられない子どもの対応を考える」と題した講演がおこなわれた。

栄養教職員部は、安全・安心でおいしい学校給食の充実と、学校給食を生きた教材として学校における食育推進に取り組んでいる。県内各地で、食物アレルギーに対応をはじめ、地域・家

庭・保護者と連携した学校給食の重要性がますます高まっている。

## 参加者感想

・「会食恐怖症」という言葉を初めて聞いたが、話を聞く中でこれまで本校でも同様の症状は聞いたことがあると思った。これからも様々な状況の子が出てくると思うが、どの子も楽しく安心して給食の時間が過ぎるようになればいいと思つた。安心感がないと食べるこ

・大切なことは、食べるこ

・と、生きること、そして学ぶこと、すべて同じだと

・と思った。安心感がないと食べるこ

・思つた。安心感がないと食べるこ

・思つた。安心感がないと食べるこ